

令和2年 7月市長定例記者会見

日 時：令和2年7月1日（水） 午後1時～

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、
北日本放送、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、政策推進課長、社会福祉課長、
地域振興・文化課長、農林水産課長

○質疑応答の概要

Q 1. 保守分裂戦の構造が確定した知事選について。保守分裂戦をどう受け止めるか伺いたい。

A 1. 有権者の意思を示す、また、それぞれの候補者のビジョンを聞きながら富山県の未来についてしっかり考える機会としては選挙そのものをするということはよいことなのではないかと考えるが、保守分裂ということでは様々な影響が懸念される。例えば、知事選が衆議院の解散総選挙と同時期になった場合、一方で一つの党派の候補を応援しながら、知事選においては別の対応をする、といったことが懸念される。また、選挙の際、佳境に入りながらお互いの陣営がヒートアップすると様々な軋轢が起こるのではないかという心配がある。こういったことから、保守の中で候補者を一本化することができれば一番良かったのだろうが、自民党県連、上院総務、国会議員の先生方で非常にいろいろと苦慮されながら推薦候補を決められたということで、自分としては尊重したい。

Q 2. 保守分裂戦の構造が確定した知事選について。市町村内でどのような影響がでてくるか市長の考えを伺いたい。

A 2. 陣営が二つに分かれて選挙をする中で様々な軋轢が起こるのではないかと心配する。選挙の間は致し方無いところがあるかもしれないが、終わった後は、よりよい未来に向けて当選された方を中心に力を合わせていく環境をいかにつくるかが大事になると考える。

Q 3. 知事選について。石井氏と新田氏のどちらを支持するのかとその理由、また支持しない候補者の印象について伺いたい。

A 3. 現職の石井知事を支援しようと考えている。石井知事は、就任当初から県において行財政改革に非常に積極的に取り組まれ、北陸新幹線建設では、多額の地元負担が求められた中、負担軽減に努められた。また、東京一極集中の中で税収も偏在性が見られたが、地方にもしっかりと収入があるという仕組み作りにも尽力され、富山県 UIJ ターンで、若者が富山に戻る、富山に新たな住まいを設ける取り組みに、県内市町村とも連携しながら実績をあげられ、移住される方も増えてきている。また若手の企業支援、いろんな企業への設備投資などの支援策も積極的に展開されるなど、多くの実績をお持ちだと認識している。新型コロナウイルス感染症の感染者が県内で出た状況においても、いち早く記者会見を開かれ、県民の不安を払しょくし、知事が陣頭指揮を執っていくというメッセージを示されるなど実際に新型コロナウイルス感染症の対策に必要な施策や手当を着実に実施されたと考えている。これからウィズコロナ、アフターコロナという誰も経験したことのない時代に入っていく。こうした先行きが見えない時代だからこそ、豊かな経験と確かな手腕を発揮していただき、この難局を乗り越え、コロナ時代後の富山県のしっかりとした基盤を作っていただくことを期待し、石井知事をご支援したい。

一方で新田氏については、具体的な政策集、実現していきたいビジョンをまだ示されていないので、評価ができない。自民党県連の中で推薦候補を推薦する段階で県議会議員の方々、国会議員の先生方などが二人から直接お話をお伺いになって、そのうえで富山県政を任せられるのはどちらなのかを判断されたと捉えている。様々な意見があるなかで、選考も大変難しい場面だったと思うが、自分としては、石井知事を推薦すると決められた自民党県連の判断を尊重したい。

Q 4. 今回開設されるふくし総合相談センター「すてっぷ」の特色にあるひきこもり・生活困窮について、射水市で把握しているのひきこもりの数などの背景や具体的な数値があれば伺いたい。また、ひきこもりの実態の把握に向けて、取り組む予定があれば伺いたい。

A 4. 背景として、「8050問題」といったひきこもりのお子さんの面倒を見てこられたご両親が80代で介護が必要となり、お子さんも50代に差し掛かりこれからご両親に何かあった場合、お子さんはどうしたらよいのかという不安などが射水市の中で数多く聞かれている。具体的な数については、相当数の方がいると認識している。そうした多くの方々の声をしっかり受け止めながら、必要な対策をとっていきたいという思いから社会福祉協議会の皆さんの協力をいただいて「すてっぷ」の開設を図るものである。事業の実施については、地域の民生委員・児童委員、また、それぞれの地域に開設している地域おこし支援センターと連携を図り、ご両親や地域の方からお話を聞きながら、必要な支援につなげていければと考えている。射水市では、民生委員・児童委員からのいろんな情報をもとに、皆さんが把握をしておられる範囲での実数・事例数は把握しているが、国でいう人口当たりの予想数に当てはめると、こちらが実際把握した以上の方がお困りであろうと捉えている。詳しい実態の把握は難しいが、地域で活躍いただいている民生委員・児童委員・地域包括支援センターのみなさん、地区社協のみなさんと連携を図りながら、出来る限り状況を把握しつつ必要な支援につなげていきたい。

Q 5. クロスベイ新湊について。駐車場の完成はいつごろになりそうか、また、台数は何台分くらい確保するのか。

A 5. 外構工事については、現在も続いており、8月1日のオープンまでには完成すると聞いている。今後の工事が順調に進んでいくことを願っている。駐車台数は約165台。そのうち商工会議所、射水ケーブルネットワーク等で社員の駐車場として使われるので、残りの一般用の駐車場は約80台程度になる。

Q 6. クロスベイ新湊について。民間の建物の一部を市が借りるという立場だ
と思うが、クロスベイ新湊に市が投じてきた総工費を確認したい。また、
賃借料を払う分もあれば敷地全体は市有地なので賃借収入が市に入るこ
とになるのか。

A 6. まず、クロスベイ新湊については民間活力を導入しての整備というこ
とで、整備そのものについては大和リース株式会社がされており、市からの
持ち出しはない。今後、一部をお借りして賃借料を払っていくことになる。
また、その中に様々な備品を入れていくが、これについては市が購入する
ので、その部分にお金がかかる。公共交通ターミナルの整備については、
国の支援をいただきながら市が整備する。なお、市は大和リースから敷地
部分に関する賃借料の支払いを受け、建物部分に関する賃借料を支払う
こととなる。